

依 存 症 を 考 え る
— 身 近 に あ る 依 存 症 —

依存症について

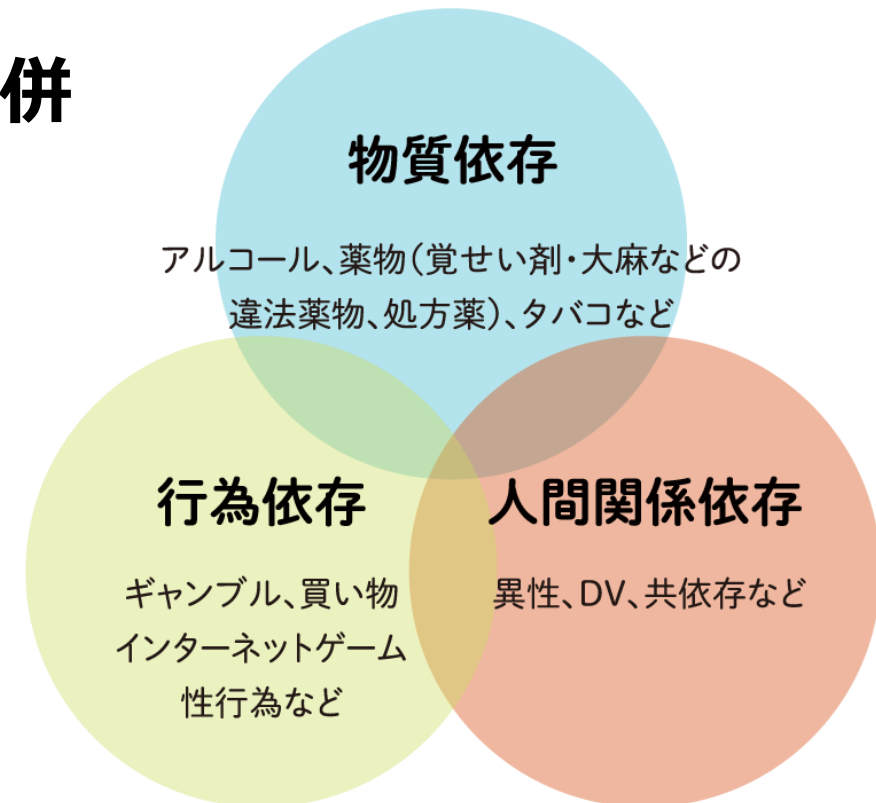
・物質依存・行為依存・人間関係依存

– アルコール・薬物（違法薬物、処方薬、市販薬）・ギャンブル、ゲーム・ネット、買い物、窃盗症、**自傷**、性行為等

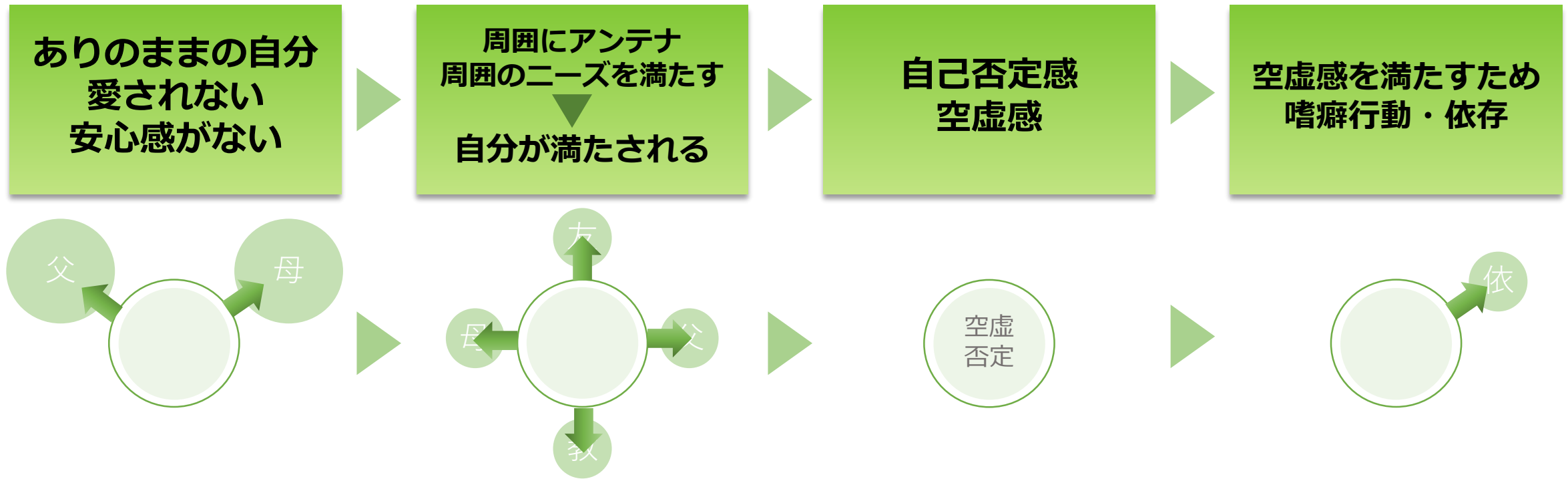
・うつや不眠などの精神的な問題や発達障害の合併

・アディクション問題によるDVや虐待の問題

- ・アルコール依存症をもつ子どもの問題
- ・自殺の問題、飲酒運転や物質使用障害による事件
- ・事故など司法がからむ問題
- ・ギャンブルの借金問題、虐待、万引きなど



なぜ依存症になるのか？ - 依存症が形成される過程



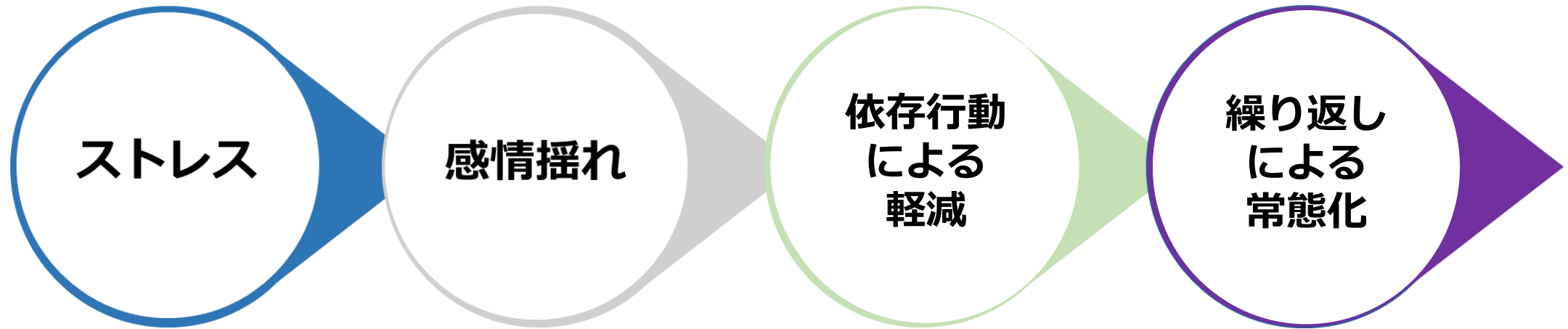
「自分らしさ」を否定して、「自分」がわからなくなる

(参考文献)

小林桜児『人を信じられない病-信頼障害としてのアディクション』日本評論社

水澤都加佐『あなたのためなら死んでもいいわ：自分を見失う病「共依存」』春秋社

ストレスを解消するための依存行動 – 自己治療仮説



生きづらさを支えるために必要となる依存対象

(参考文献)

E.J.カンツィアン『人はなぜ依存症になるのか – 自己治療としてのアディクション』星和書店

依存症をどう理解するか？ - 生きづらさの根を観る



アセスメント－3軸からみる

①目に見える症状は何か？（葉）

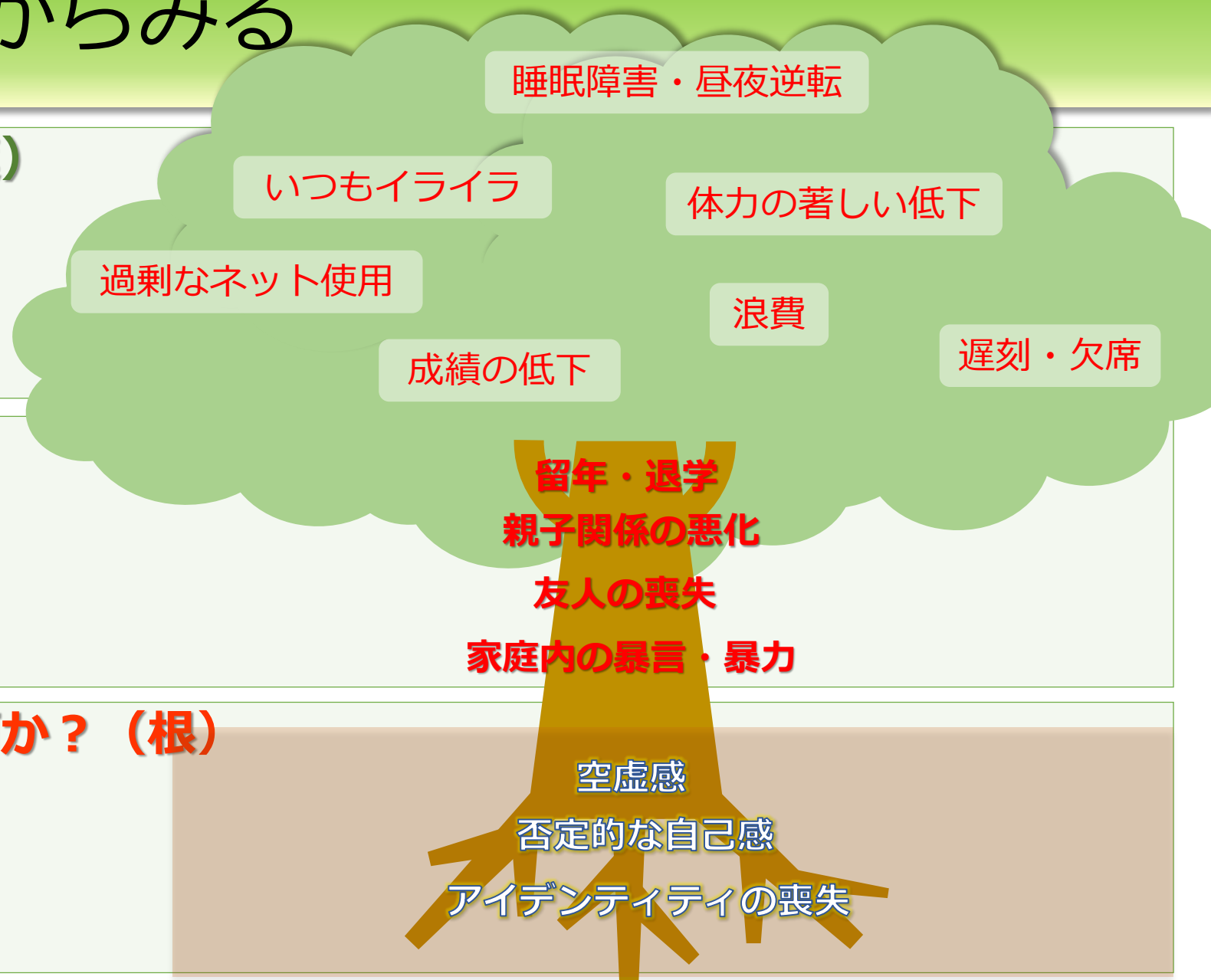
- ・成績が低下する
- ・遅刻・欠席が目立つ
- ・睡眠障害・昼夜逆転

②関連問題は何か？（幹）

- ・親子関係の悪化
- ・友人がいなくなる
- ・留年・退学の可能性が大きくなる

③本人の抱える生きづらさは何か？（根）

- ・期待に応えられないふがいなさ
- ・「自分らしさ」がわからない
- ・友人との「つながり」が作れない



依存状態から依存分散状態へ - 回復のイメージ



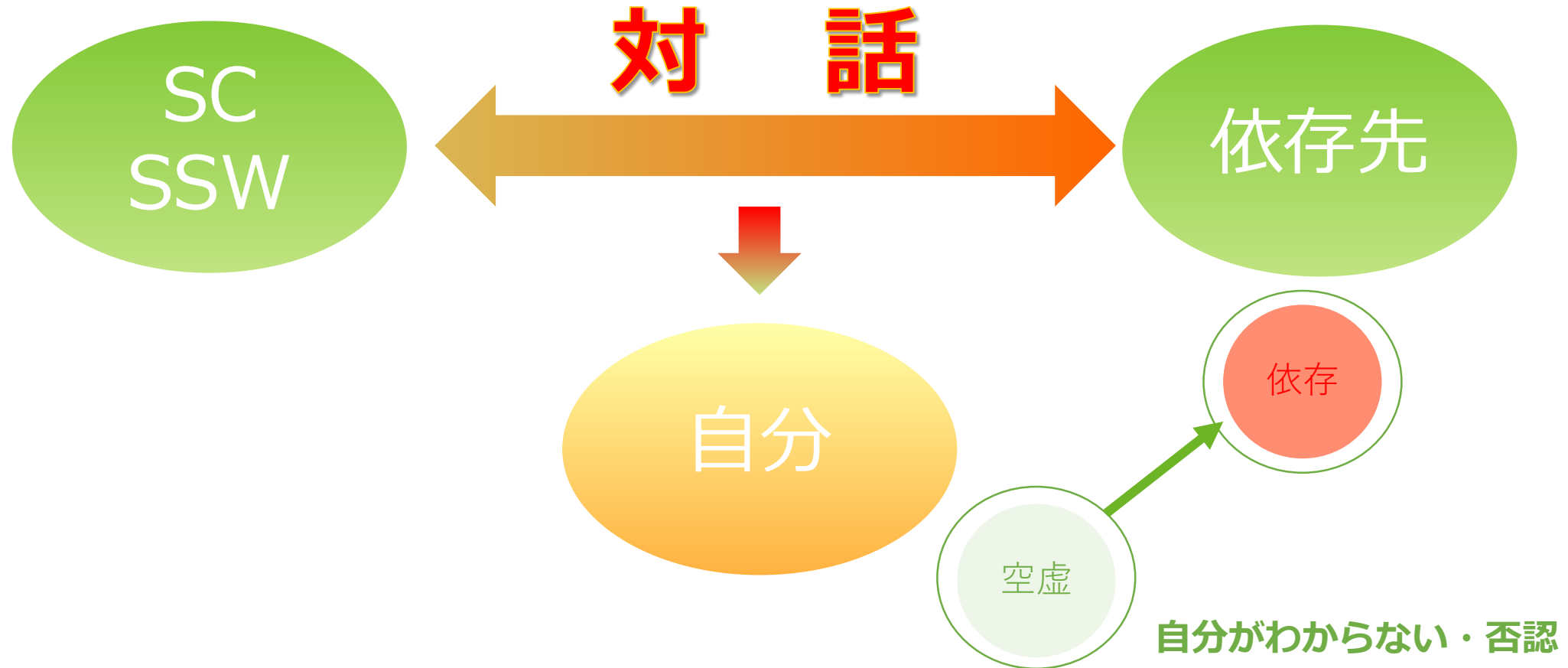
依存先が少ない状態



依存先がたくさんある状態

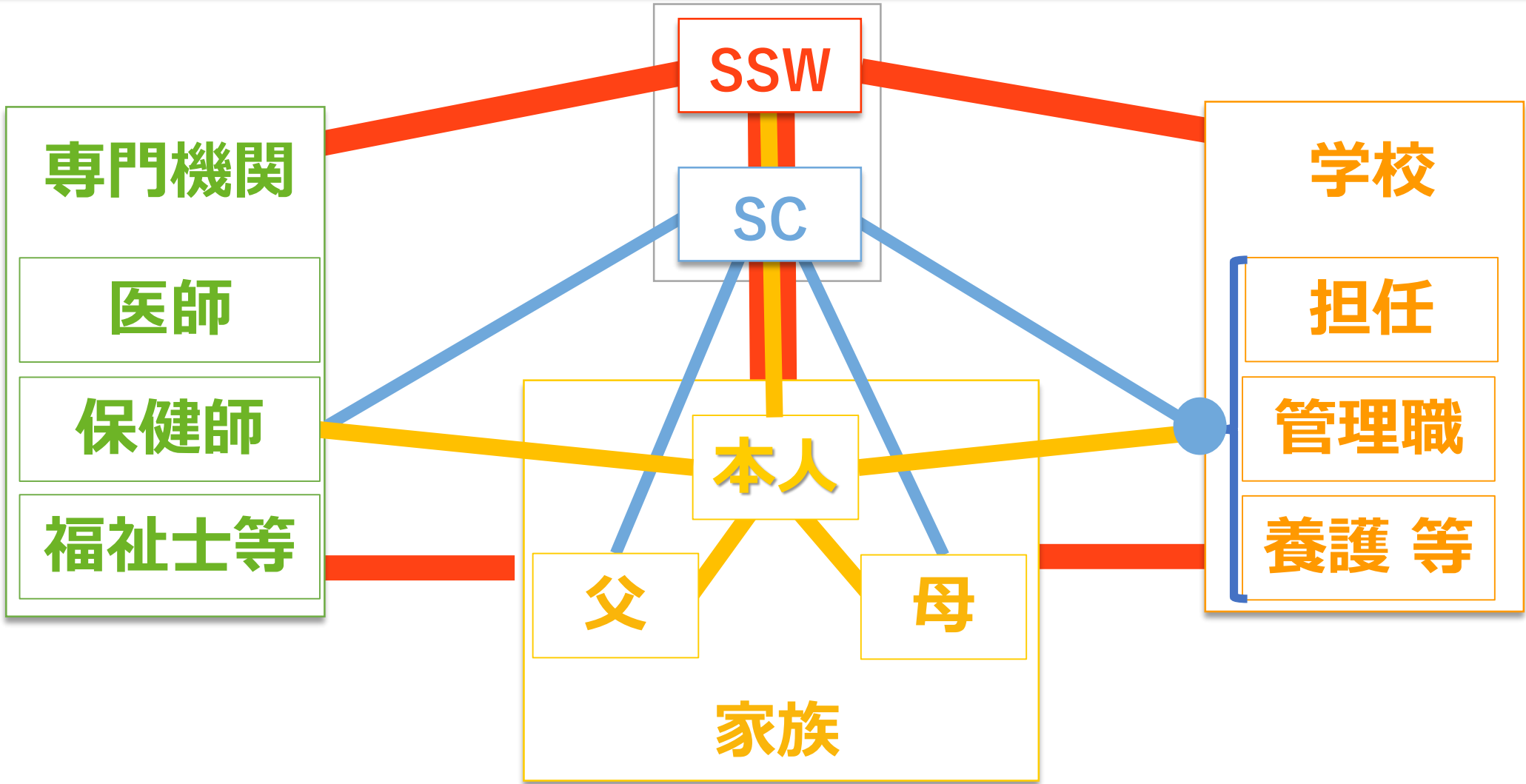
依存先を減らすのではなく、依存先を増やすという考え

対話を通して理解を深める – 生きづらさの理解



周囲との対話から本人の理解を深める
周囲との理解を深めてネットワークをつくる

本人を理解するネットワークを広げる – 治療目標



生きづらさを理解して、こころの成長へ皆で取り組む

まとめ

生きづらさ

「減らす/やめる」を中心に置くのではなく、「生きづらさ」をみすえて理解を深める。

対話

言葉・態度・振る舞いを通して、「自分を語り」、理解しながら「相手を聴く」という対話を促すことを目標とする。

理解のネットワーク

深めた理解をもとに理解のネットワークをつくり、周囲とのつながりを広げていく。

**理解のネットワークから本人の語れる場をつくる
本人との対話を促して、皆で課題に取り組む**